編集後記・Editorials

魚類学雑誌
56(2): 195

魚類学雑誌56巻2号をお届けします．総説1，本論文3，短報5の構成です．本号ではひさしぶりに総説を掲載することができました．不案内な分野での研究の進捗状況が一気に把握できる点，会員のみなさまにとってメリット大であると思います．意欲的な総説のご投稿，お待ちしています．

編集作業をしていると，漢字とかなの使いわけにはいつも悩まされます．漢字でもかなでも両方とも正しい表記ですから，すべてを著者にまかすのも1つの考え方でしょう．その一方，本誌のように字画の多い専門用語が頻出する雑誌では，かな表記の多用もとりえる立場です．「及び」，「従って」，「全て」などはかなにするようにしていますが，こちらの煮え切らない性格もあり，徹底できているわけではありません．かなを漢字に直すことは基本的にしないといったところでしょうか．ともあれ，原稿の字面を見たときに，暗い印象を受けるようであれば，かなを交えて「明度」を高める気持ちでいると，読みやすい原稿ができると思いますが，いかがでしょう．

本号から「魚類学雑誌投稿規定」と「原稿作成上の注意」の印刷をとりやめました．投稿をなさる方は学会ホームページで最新版を参照してください．

56巻の編集にあたり，下記の方々に原稿の校閲でご尽力いただきました．記してお礼いたします（敬称略）．

藍沢正宏，福井　篤，後藤　晃，早川洋一，今村　央（4），井上幹生，神宮字　寛，片山英里，亀甲武志，木村清志，北野　聡，古屋康則，工藤樹洋，真鍋尚也，本村浩之，向井貴彦，村瀬敦宣，岡本　誠，中村智幸，成瀬　清，斉藤憲治，佐々木邦夫（3），佐藤拓哉（2），柴田淳也，篠原現人（4），高木基裕，高橋　洋，高久宏佑，高田啓介，竹花祐介．

（佐々木邦夫）